

2017年3月期（第117期）第2四半期
（2016年4月1日～2016年9月30日）

芦森グループ決算説明資料

連結業績は、売上高22,847百万円、
営業利益64百万円、経常損失426百万円、
親会社株主に帰属する四半期純損失685百万円、となりました。

2016.11.10

芦森工業株式会社

I. 2017年3月期（第117期） 第2四半期実績

2017年3月期 第2四半期は前年同期比で減収減益

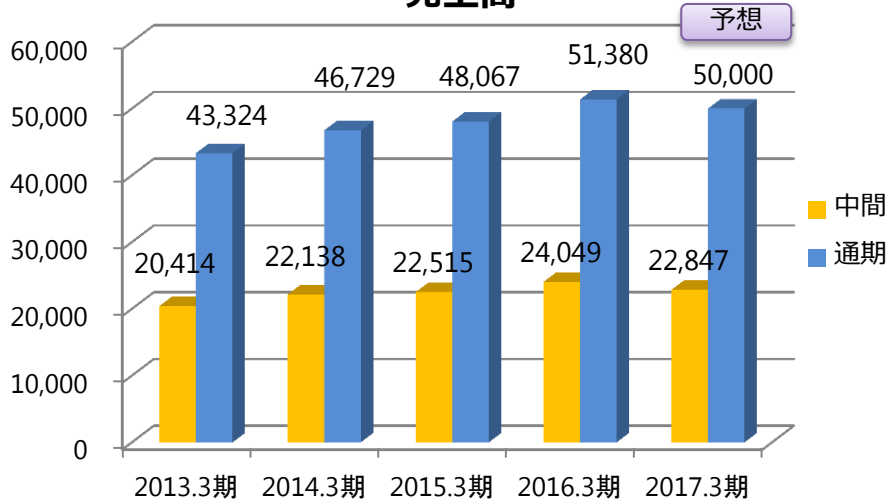
	2015.3期 2Q実績 (百万円)	2016.3期 2Q実績 (百万円)	2017.3期 2Q実績 (百万円)	前年同期比	
				(百万円)	増減(%)
売上高	22,515	24,049	22,847	▲1,202	▲5.0%
営業利益	▲12	737	64	▲673	▲91.2%
(営業利益率)	-	3.1%	0.3%	▲2.8ポイント	-
経常利益	▲140	848	▲426	▲1,274	-
特別損益	29	4	159	155	-
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	▲196	693	▲685	▲1,378	-

減収減益の主な要因は下記の通り。

- ・主力の自動車安全部品事業において、円高および国内の自動車減産等の影響を受けた結果、売上高および営業利益は前年同期比減収減益。
- ・円高による為替差損の発生、繰延税金資産の取り崩し等により、経常損失、四半期純損失を計上。

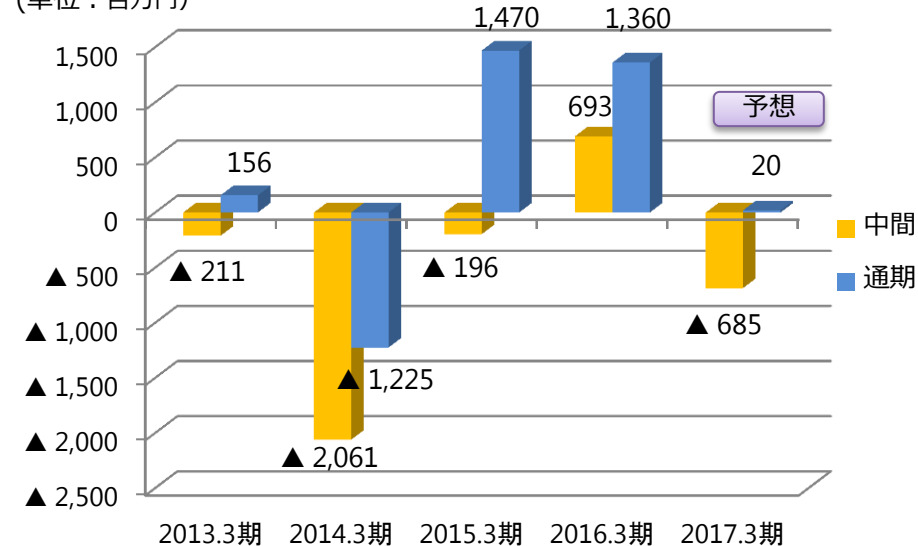
(単位：百万円)

売上高



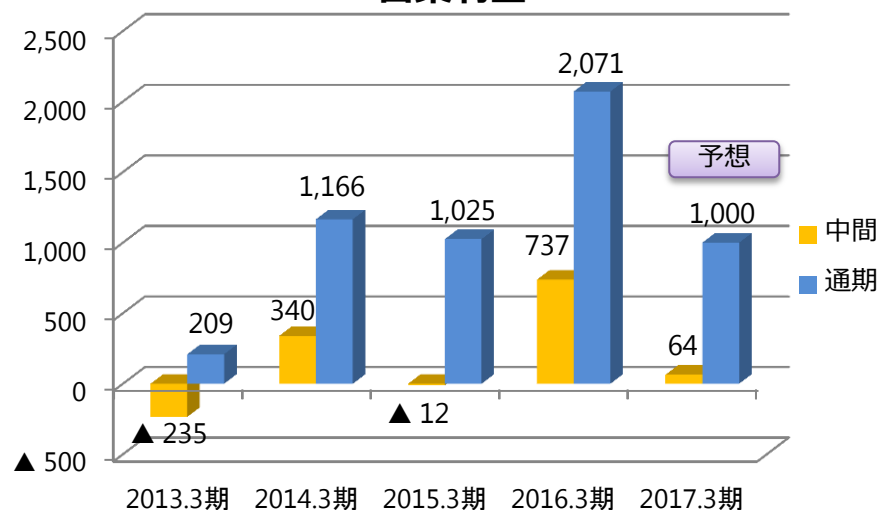
親会社株主に帰属する四半期純利益

(単位：百万円)



(単位：百万円)

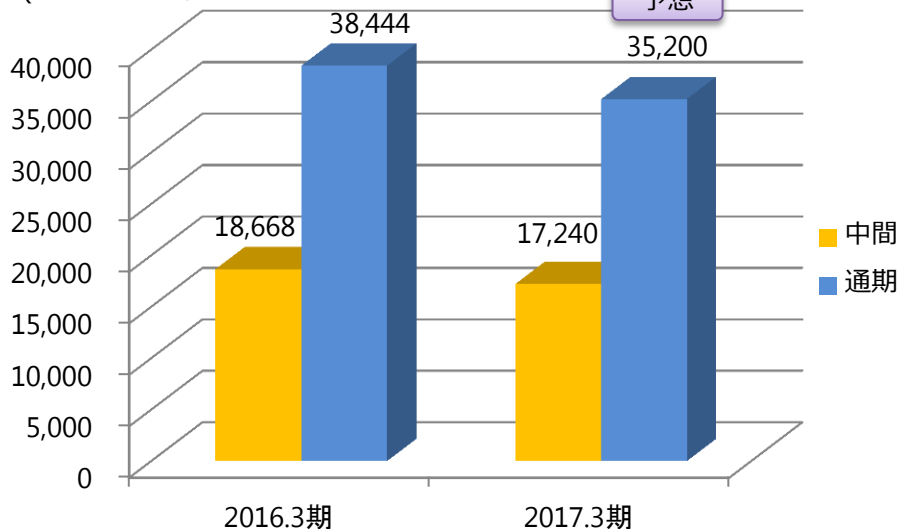
営業利益



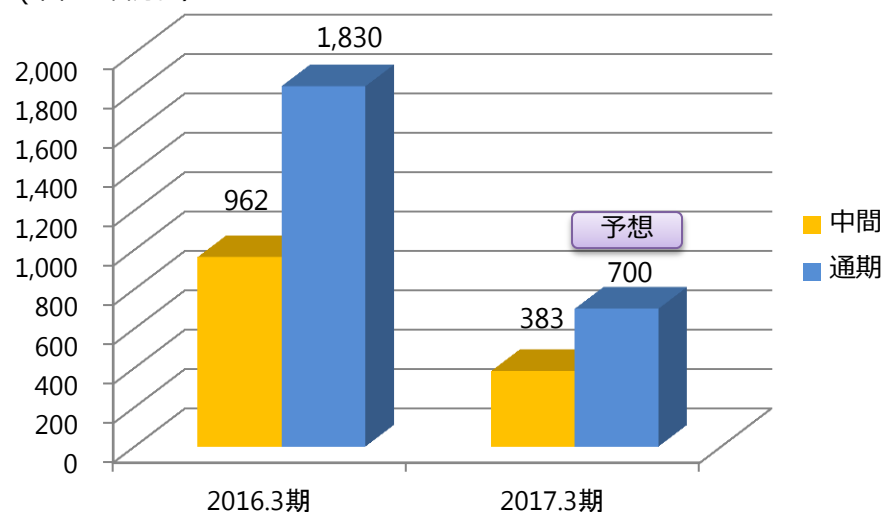
- ・主力の自動車安全部品事業において、円高および国内の自動車減産等の影響を受けた結果、連結業績は減収減益。
- ・円高の影響により為替差損488百万円を計上。
- ・繰延税金資産の取り崩し277百万円を法人税等調整額に計上。
- ・足元の状況を踏まえ、今期連結業績予想を、売上高500億円、営業利益10億円、経常利益6億円、当期純利益20百万円へ下方修正。（詳細後述）

		2016.3期 2Q実績 (百万円)	2017.3期 2Q実績 (百万円)	前年同期比	
				(百万円)	増減(%)
自動車 安全部品 事業	売上高	18,668	17,240	▲1,428	▲7.6%
	営業利益	962	383	▲579	▲60.2%
	(営業利益率)	5.2%	2.2%	▲3.0ポイント	-
機能製品 事業	売上高	5,376	5,604	228	4.2%
	営業利益	369	276	▲93	▲25.2%
	(営業利益率)	6.9%	4.9%	▲2.0ポイント	-
調整他	売上高	5	2	▲3	-
	営業利益	▲594	▲595	▲1	-
合 計	売上高	24,049	22,847	▲1,202	▲5.0%
	営業利益	737	64	▲673	▲91.2%
	(営業利益率)	3.1%	0.3%	▲2.8ポイント	-

連結売上高
(単位：百万円)



連結営業利益
(単位：百万円)



2017.3期第2四半期累計

売上高（前年同期比 7.6%減↓）
営業利益（同比 60.2%減↓）

<業績概要>

・シートベルト・エアバッグ

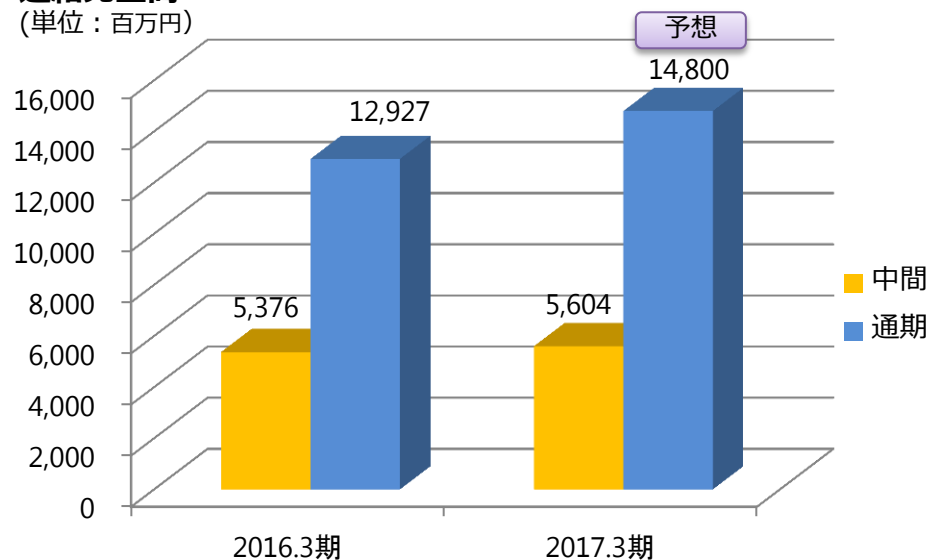
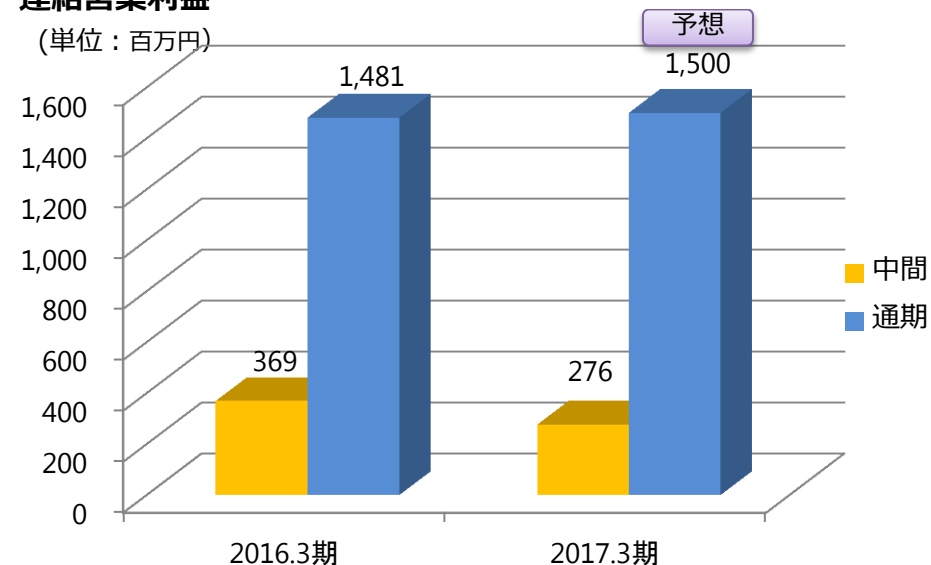
海外において新規車種の立ち上げ等により売上が増加したものの、円高および国内での新車販売低迷による減産等の影響を受け売上は減少。

・内装品その他

タイにおいては売上が増加したものの、その他の地域において販売が低迷し売上は減少。

・利益面

メキシコ・タイ・韓国等の現地法人および芦森山口が、生産効率向上や品質改善の効果により業績が改善するも、国内単体の売上不振により営業利益は前期比大幅に減少。

連結売上高
(単位：百万円)連結営業利益
(単位：百万円)

2017.3期第2四半期累計

売上高 (前年同期比 4.2%増↑)
営業利益 (同比 25.2%減↓)

<業績概要>

・ パルテム関連

緊急排水ホースの需要は減少するも、ライフライン（下水道・電力等）の管更生分野において受注が好調に推移し売上は増加。

・ 産業資材関連

物流省力化関連商品の需要が増加したものの、合繊ロープの需要低迷により売上は減少。

・ 防災関連

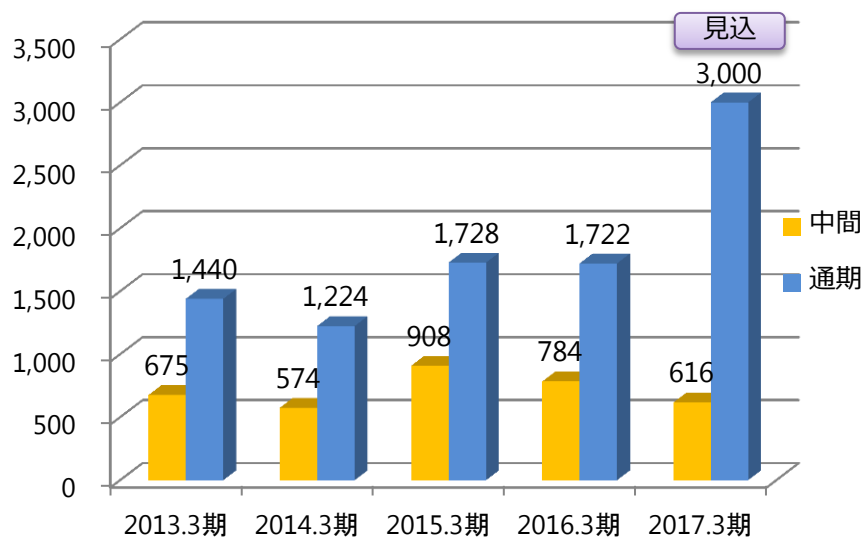
多発する自然災害により防災関連商品の需要が増加したものの、大口径ホースの受注時期が遅れたことにより売上は減少。

※パルテム（Pipeline Automatic Lining system）

・・・ライフライン(上下水道・ガス等)の管更生事業

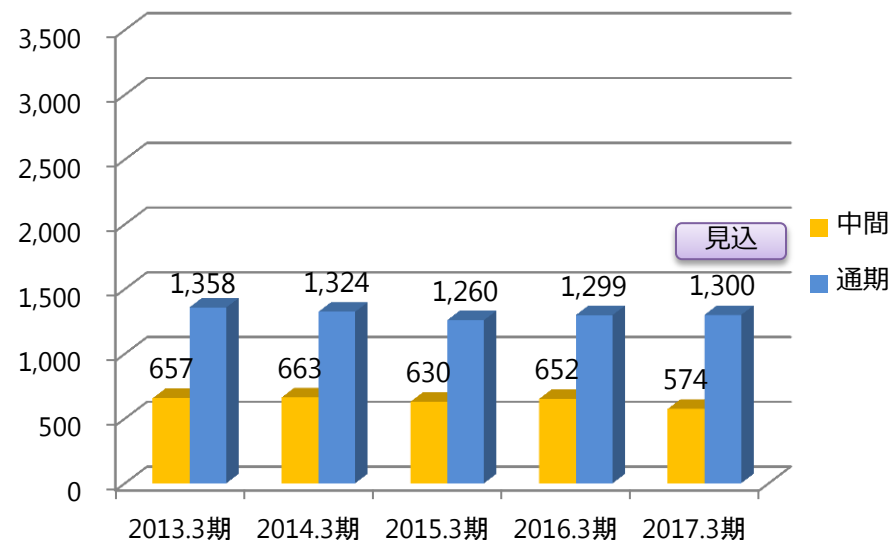
設備投資の推移

(単位：百万円)



減価償却費の推移

(単位：百万円)



<設備投資について>

当期の設備投資は合計 約30億円の見込み。

(内訳は、自動車安全部品事業 約23億円、機能製品事業 約6億円、その他 約1億円)

主な投資内容は、メキシコ現地法人第二工場建設 約6億円（建設費総額 約13億円の内今年度投資予定分）など。

(単位：百万円)

	2016.3期2Q末	2016.3期末	2017.3期2Q末	前期末比
流動資産	23,500	23,604	22,610	▲ 994
固定資産	12,899	12,859	14,001	1,142
資産合計	36,400	36,464	36,612	148
有利子負債	9,986	8,833	11,156	2,323
その他負債	13,064	14,052	13,332	▲ 720
負債合計	23,050	22,886	24,488	1,602
株主資本	12,655	13,319	12,450	▲ 869
資本金	8,388	8,388	8,388	0
資本剰余金	1,632	1,632	1,632	0
利益剰余金	2,639	3,306	2,438	▲ 868
自己株式	▲ 5	▲ 8	▲ 9	▲ 1
その他の包括利益累計額	665	231	▲ 356	▲ 587
非支配株主持分	29	27	28	1
純資産の部合計	13,350	13,577	12,123	▲ 1,455
負債及び純資産の部合計	36,400	36,464	36,612	148
自己資本比率	36.6%	37.2%	33.0%	▲4.2ポイント

- ・ 流動資産は、売上債権が前期末からの債権回収が進み減少。
- ・ 固定資産は、オールセーフ株式取得によるのれん計上により増加。
- ・ 有利子負債は、オールセーフ株式取得に向けた資金調達により増加。
- ・ 純損失計上により自己資本比率は低下。
- ・ その他負債は、買入債務の減少により減少。

	2016.3期2Q	2017.3期2Q	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,046	1,702	655
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲814	▲2,224	▲1,409
財務活動によるキャッシュ・フロー	220	1,643	1,423
現金及び現金同等物の増減額（▲は減少）	413	868	455
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	2,916	4,011	1,095

- ・「営業活動によるキャッシュフロー」は、売上債権の減少等により前期比改善。
- ・「投資活動によるキャッシュフロー」は、連結の範囲の変更を伴う子会社オールセーフの株式取得等により前期比支出が増加。
- ・「財務活動によるキャッシュフロー」は、長期借入金の増加等により前期比増加。
- ・トータルの資金収支は、「営業活動によるキャッシュフロー」の改善により前期比改善。

Ⅱ. 2017年3月期（第117期）予想

2017年3月期連結業績予想を下方修正、前期比減収減益

※「前回予想」は2016年5月13日決算短信より

	2016.3期	2017.3期		前期比		前回予想比	
	実績 (百万円)	前回予想 (百万円)	今回予想 (百万円)	百万円	増減%	百万円	増減%
売上高	51,380	52,000	50,000	▲1,380	▲2.7%	▲2,000	▲3.8%
営業利益	2,071	2,100	1,000	▲1,071	▲51.7%	▲1,100	▲52.4%
営業利益率	4.0%	4.0%	2.0%	▲2.0ポイント	-	▲2.0ポイント	-
経常利益	1,700	2,000	600	▲1,100	▲64.7%	▲1,400	▲70.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,360	1,500	20	▲1,340	▲98.5%	▲1,480	▲98.7%

- ・売上高および営業利益については、自動車安全部品事業における円高および国内新車種販売低迷にともなう受注車種減産の影響や、機能製品事業における大口径ホース受注時期の遅れにともなう減少等により、前回予想を下回る見込み。
- ・経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益については、海外子会社を中心とした為替差損の計上および繰延税金資産の取り崩しを法人税等調整額に計上したこと等により、前回予想を下回る見込み。

当期の期末配当は、普通株式1株あたり3円を予定（前期の期末配当と同じ）

※「前回予想」は2016年5月13日決算短信より

		2016.3期	2017.3期		前期比		前回予想比	
		実績 (百万円)	前回予想 (百万円)	今回予想 (百万円)	(百万円)	増減%	(百万円)	増減%
自動車 安全部品 事業	売上高	38,444	37,500	35,200	▲3,244	▲8.4%	▲2,300	▲6.1%
	営業利益	1,830	1,900	700	▲1,130	▲61.7%	▲1,200	▲63.2%
	営業利益率	4.8%	5.1%	2.0%	▲2.8ポイント	-	▲3.1ポイント	-
機能製品 事業	売上高	12,927	14,500	14,800	1,873	14.5%	300	2.1%
	営業利益	1,481	1,400	1,500	19	1.3%	100	7.1%
	営業利益率	11.5%	9.7%	10.1%	▲1.4ポイント	-	0.4ポイント	-
調整他	売上高	8	5	5	▲3	-	0	-
	営業利益	▲1,241	▲1,200	▲1,200	41	-	0	-
合計	売上高	51,380	52,000	50,000	▲1,380	▲2.7%	▲2,000	▲3.8%
	営業利益	2,071	2,100	1,000	▲1,071	▲51.7%	▲1,100	▲52.4%
	営業利益率	4.0%	4.0%	2.0%	▲2.0ポイント	-	▲2.0ポイント	-

Ⅲ. トピックス・参考資料

2016年5月、当社はオールセーフ株式会社の全株式を取得し、同社を子会社化致しました。本件により、当社にて製造販売している物流省力化商品等の生産体制の最適化、製品力の強化、事業の広域化等、企業価値の向上につなげてまいります。



▲オールセーフ東北工場

オールセーフ株式会社ホームページ
<http://allsafejapan.com/>

オールセーフ株式会社の概要

1. 本社所在地
横浜市中区桜木町1丁目1番8号
2. 設立年月日
1989年（平成元年）2月23日
3. 主な事業内容
物流機器の製造販売、
介護機器の輸入製造販売
4. 資本金
35百万円
5. 売上高
1,771百万円（2015年12月期）

メキシコ現地法人 ASHIMORI INDUSTRIA de MEXICO, S.A. de C.V. では、北米・欧州自動車メーカーへの拡販に向けた生産能力向上への対応のため、既存第一工場横に第二工場を建設致します。



▲第二工場完成予想外観図

メキシコ現地法人第二工場の概要

1. 建設場所
Circuito San Roque Norte 345, Parque Industrial Santa Fe Ampliacon, Silao, Guanajuato, Mexico
2. 工場面積
建屋面積 約6,300m²
延床面積 約21,500m²（4階建）
3. 投資額（工場建設費）
約2億メキシコペソ（約13億円）
4. 操業開始
2017年7月（2016年7月着工済み）
5. 主な事業内容
自動車用シートベルト・エアバッグ・
内装品等の製造・販売

当社が株式を上場しております東京証券取引所におきまして、従来当社株式の所属業種は「繊維製品」に分類されておりましたが、証券コード協議会の決定により、本年10月3日より「輸送用機器」に変更となっております。

これに伴い、新聞各紙の株式欄等の表示箇所も「輸送用機器」に移っております。
(証券コード(3526)の変更はございません。)

1. 変更内容

	現所属業種	新所属業種
大分類	製造業	製造業
中分類	繊維製品	輸送用機器

2. 変更の理由

当社グループにおいて、シートベルト、エアバッグ等の自動車安全部品事業の売上高が拡大したことに伴い、証券コード協議会が設定した「業種分類に関する取扱い要領」の所属業種変更基準に該当することとなりました。

3. 変更日

2016年10月3日（月）

製品のご紹介（自動車安全部品事業）



▲シートベルト



▲エアバッグ



▲トノカバー（フロントカバー付タイプ）



▲手動ドアシェード

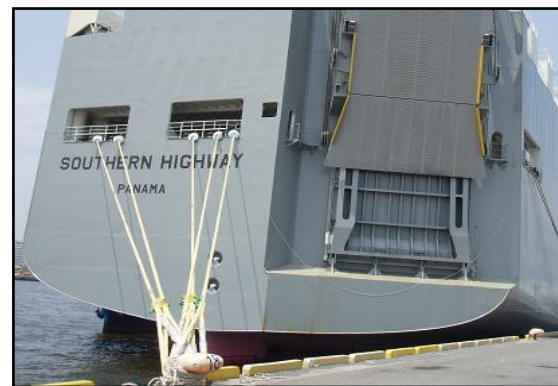
事業内容

自動車用シートベルト、エアバッグ、ステアリングホイールおよび内装品等の製造・販売

製品のご紹介（機能製品事業）



▲パルテム・フローリング工法



▲船舶用ロープ



▲パルジェット（緊急排水ホース）

事業内容

高機能資材織物、細巾織物および各種合繊ロープ、消防用ホース、消火栓用ホース、工業用ホースおよび防災用品等の製造・販売、管路更生工法の開発、工法資材の製造・販売および管路更生等の工事

製品のご紹介（機能製品事業）



▲従来の消防用ホースとの通水比較（左がドルフィンエースα）

従来のホースと比べて放水時の圧力損失が約50%低減した「ドルフィンエースα」を新商品として発売、一般財団法人日本消防設備安全センターより消防用ホースとして初めて“推奨”マークの使用が認められました。

ジェットホース。新商品!! 低圧力損失ホース

ドルフィンエースα

一般財団法人日本消防設備安全センター 推奨品

消防防災 推奨

低圧損失ホースとは
放水時の圧力損失を低減させた画期的なホースです。

送水距離を... **伸ばす**
送水量を... **増やす**
ポンプ圧力を... **低く**

海の中をしなやかに速く泳ぐイメージの強いイルカ。その高速度の秘密はツルツルとしたゴムのような皮膚にあります。「ドルフィンエースα」は、そんなイルカの特徴をヒントに名付けられた芦森工業の新商品ホースです。

ジェットホース HO125FC03C 使用圧1.6MPa 65×20m

ドルフィンエースαが消防用ホースとして初めて消防防災製品等の“推奨”マークの使用が認められました。推奨マークは、消防防災分野に於いて有効に活用できると認められる製品にのみ認められるマークで、消防分野に於いての利便性、効率性、又は安全性の向上に寄与するものであること等の一定の要件が満たされている製品であることの証明になります。

（一般財団法人日本消防設備安全センターより平成28年3月1日付で消防防災製品等の推奨を取得しました）

ASHIMORI 芦森工業株式会社

**（ご参考） 芦森グループ
社是・M V V（ミッション・ビジョン・バリュー）について**

芦森工業株式会社 社是

1. 信用を重んじ、堅実を旨とする
2. 人の和と開かれた心で活力ある企業を築く
3. 創意を生かし、社業を通じて社会に貢献する

Mission・Vision・Value

【ミッション】

“安全・安心・快適”の提供で、社会に貢献する

【ビジョン】

“安全・リニューアル”分野で技術をリードする
世界に通じる“Small but Excellent Company”

【バリュー】

“信用”

“グッド・コミュニケーション”
“チャレンジ精神”



本資料中の業績予想及び見込についての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。

IRに関するお問い合わせ先
芦森工業株式会社 広報・IR室
TEL : 06-6533-9250
HP : <http://www.ashimori.co.jp>